**平成28年度三重県精神保健福祉士協会９月例会**

**「ＤＰＡＴの活動報告会」（結果報告）**

日　時： 平成28年9月4日（日）13:30～16:00

場　所： 県立こころの医療センター２階講堂

参　加： 会員28名

**１ 「ＤＰＡＴの概要について」　県健康福祉部 障がい福祉課　牧戸　貞 氏**

＊ チーム構成、活動内容、活動手順（県外被災・県内被災）、事務局等の説明。

＊ H28.9.4現在、三重DPATへの登録は11病院・19チーム。

＊ 熊本地震を振り返って（課題と考えられること）

　　　・ こころのケア対策事務局や活動拠点の機能強化

　　　・ 各エリア単位での研修・訓練

　　　・ 日常の精神保健福祉の支援体制強化

　　　・ いつになっても持ち続けるリアリティ　　など

**２ 「ＤＰＡＴの活動報告」**

　**① 榊原病院（福澤咲子 氏）**　**※第１班**

　　＊ 活動を終えての感想・まとめ等

　　　・ 「何でもやります！頑張ります！」というテンションの対応ではなく、

ゆっくり落ち着いて支援する。

　　　・ 現地のニーズを知り、支援の押し付けはしない。

　　　・ 非常時においてこそ密なコミュニケーションやチームワークが大切であり、

　　　　日頃のチーム医療が生かされると感じた。

　**② 県立こころの医療センター（山本綾子 氏）　※第２班**

　　＊ 活動を終えての感想・まとめ等

　　　・ 求められるのはチーム力。

　　　・ めまぐるしく変化する状況への対応。情報の把握・共有。何を判断するか。

　　　・ 普段から地域で関係者同士が「顔の見える仕事」をしているか。

　　　・ DPATの活動で重要なのは「調整・つなぎ」「つながる力」「ソーシャルな視点」

「ロジスティックス」。まさに、精神保健福祉士が得意とする分野だと感じた。

　**③ あすなろ学園（寺田健二 氏）　※第７班（最終班）**

　　＊ 活動を終えての感想・まとめ等

　　　・ 日頃から「顔の見えるつながり」が大切である。

　　　・ 気持ちの持ち方・接し方。支援者も被災者であり、現地の行政職員や保健師

　　　　等への支援が、結果的に被災者を支える。変なプライドはＮＧ。

　　　・ 言葉の伝達では伝わらない危険がある。文書での引継が重要である。

**（参考）平成28年熊本地震　三重ＤＰＡＴ派遣状況**

１　地震発生

前震　4/14（木）21:26　最大震度７　Ｍ6.5

　　　本震　4/16（土） 1:25　最大震度７　Ｍ7.3

２（各都道府県への）ＤＰＡＴ派遣要請　　4/16（土）13:00

３　活動状況

　＊ 全国から約20チームのＤＰＡＴが派遣され活動した（１日当たりの最多は5/6の

35チーム）。

　＊ 4/14の発災直後から4/21頃までは、損壊した精神科病院の入院患者の転院調整

　　や移送業務を実施。4/22からは、避難所の巡回、保健師チームの依頼による個別

相談を中心に実施している。三重県チームは熊本県阿蘇圏域を担当した。

　＊ 6月以降は近隣県（九州地方）が対応。結果、三重県チームは、計７班・8チーム

　　が派遣され活動した。

４　三重県チームの派遣状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　 | 日　程 | 病院名 |
| １ | 4/17（日）～4/24（日）4/18（月）～4/25（月） | 国立病院機構榊原病院こころの医療センター① |
| ２ | 4/24（日）～5/1（日） | こころの医療センター② |
| ３ | 4/30（日）～5/7（土） | こころの医療センター③ |
| ４ | 5/6（金）～5/13（金） | 松阪厚生病院 |
| ５ | 5/12（金）～5/19（木） | 鈴鹿厚生病院 |
| ６ | 5/18（水）～5/25（水） | 信貴山病院分院上野病院 |
| ７ | 5/24（火）～5/30（月） | 小児心療センターあすなろ学園 |